

上野國志

邑樂郡

和書門			
類	九二八七	函	一〇三
架	九	冊	一五

內閣文庫			
和書	九二八七	冊	一五
架	九	冊	一五

內閣文庫	
番號	和 9287
冊數	15 (4)
函號	174 221



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



上野國志

邑樂郡

和名鈔於波良改

内一〇二三〇號



和名鈔縣名

池田

伊波

足田

比木

八田

長柄

今按當郡每村

多ク長良神社

アリ皆戸井村

長良ノ社

ノ木宮アリ郡

ノ物鎮守ナ故所々ニ勸請セリ此ニ依

テミレハ皆戸井ノ邊古ク長柄ナリハシイ

ツノ比ヨリカ文字ノ長良ト書橋夕ル十九ハ
大略 迎^{大略} 自^自 餘^餘 縣^縣 名^名 今^今 考^考 ル^ル 所^所 ナ^ナリ
此州青柳支所ノ向、遠南大馬江里ノ鳥、
此州録下共箇至、竹根、
入此邊古八田十共

今村落七拾田村 粗入伍萬凍付捌佰陸
付任石陸才捌升壹合

海老瀬村 五箇村此村 大久保村 飯野村

板倉村 此村天沼

浮戸村 岩田村 伊谷田村 北大嶋村

叔谷村 赤生田村 斗合田村 江黒村 羽付村

田嶋村 新里村 江口村 手津井村

梅原村 元應ノ比梅原九郎次郎時信ト云モノアリ
仕貫氏又ナリ良田山ノ日記見一タリ

大左貫村 此郡多クハ佐貫庄ト云館城王庄貫庄

ノ内ナリ 梅ノ比 胡海太郎 重光カ子 廣行 廣義 并

左貫ト称 齊藤元應ノ比佐貫氏考孫古所入道願
阿左衛門六郎經信ト云モノ皆廣行廣義ト

中谷村 矢嶋村 南矢嶋村

河役村 渡港ナリ開ナリ開街ハ南岸ナリ

武列新御村ナリ

須賀村

古海村 藤秀卿六代喬足利太神兼行三男

成綱の子成光古海太郎ト号ス始テ此所居ス

其子重光上野ノ守護タリ重光ノ子廣綱ノ

子廣家並ニ胡海太郎ト称

瀬戸井 廣家ノ弟瀬戸井五郎取久子戰死ス

大輪村 廣家ノ弟大輪八郎ナリ 永仁ノ比大輪又太郎時考ナリ者

古戸村 廣家ノ弟古戸九郎景綱ナリ

三林村 廣家ノ弟三林十郎廣時ナリ

舞木村 應永二十四年上校禪秀ノ乱時舞木

駿河守持廣御所方ナリテ岩松滿純ヲ討テ

功アリ永亨ノ銘城氏朝カ乱持廣銘城ニシ

減タリ

入箇谷村

赤塚村

狸塚村

木崎村

赤岩村

鍋屋村

福鳩村

新福寺村

新又作真

此村ニ法林寺アリコレ古ノ真福寺ト云ヒヤルニ法林寺ハ三ト臨深宗

三ノ東朝禪師ノ同基アリ元福ノ此海潮音ノ寺ニ任ニテヨリ黄蘗流トナル 寛文

仙石村

寄木戸村

坂田村

小泉村

町ナリ古海廣家ノ弟六郎左衛門秀

細カ子 秀行 小泉ニ郎ト称ス 上下アリテ小泉ノ町ナリ

古水村

石打村

中野村

萱野村

藤川村

鶉村

日向村

高根村

岡野村 早川村 上下 當郷ヲ所ヲ上橋ト云
善長寺ノ在所ナリ

新郷郷 谷越村 新宿 館村ノ所ナリ

小栗村^{栗原} 青柳村 松原村 西岡

西岡新田 除川 成亨 足次村 大新田^{後家}

傍本塚 當作榜示知大地名三傍人ナト云アリコシ

領分或ハ國郡界上榜ヲ建テ示ス知ナリ

木戸村^{上深格} 雜村 細谷 大荷場^{尾カ} 大曲 田各 四谷

上橋 内藏新田^{クラニシテ} 嶋村 大久保 高嶋^{カガ} 野邊

續日本紀神護景雲三年四月甲子上野國邑樂
郡人外大位上下長各部宇麻呂賜姓大伴部

近藤林

大谷ヤ

館林ノ西ニ在リ

大谷松原ノ八町余ノ林ナリ
廣キ林ナリ文
近藤林四十九町余アリ

祿四年ヨリ三年ノ内大谷休伯ト云モノ奉行トシテ

松ヲ植故ニ大谷松原ト云又休伯ト云村モアリ

板倉沼

板倉村ノ地ナリ長

横十八町細計スルニ百三十四町

多々良沼

鶴村ヨリ長十町細計スルニ百三十四町
日向村南ニ在リ

三林沼

又近藤ニ云長四町横三町

大輪沼

長四町横八町細計スルニ百三十四町

館林沼 城東南ヨリ南北集メテリ長十三町横五町ハカリ跡沼ノ地ナリ

瀨沼ノ地ノ常憲院殿日光ノワシテ取寄植サセ玉フ數百本大木ナリ花時

神社

長良神社

瀬戸井村ニテリ

瀬或 祭神不詳

交説 在昔

上列數乱ルニテアリ

帝。黃門侍郎藤長良シメ上列ヲ鎮撫セシ

メテ国大ニ能治レリ長良帰京ノ後家監

赤井帥助ト云モノヲ留メテ上列ニ在ラシ長

良没後因大遺愛ヲ頌メ不息ニテナリ

師助園又ノ請ニ依テ寄リ

上ニ長良ヲ神ニ祝フ祀ヲ建テコレヲ祭ルトテ詠

太リ可疑長良公ノ国史ニ詳カナリ上列ヲ領ヌ

ルノ不見且ノ知名抄ノ縣名ニ長^{ナカラ}柄アリコレ地名

ヲ以^テ社ニ名ケルモノナリ華表額ニ長良殿トアリ

夫^レヲオヨトト唱フ社地ハ上ノ字ヲ^{カクダ}象シリ

愛宕社 館林ニアリ

文禄十年神原康政ノ建立別當眞藏寺坊

依法印ヲ開祖トス^{後 常憲院殿階毫ノ塔再建ニテ}眞言新義ナリ

本山修験ナリ

富士社 富士原ニアリ

寛永九年松平忠次ノ建立別當千眼寺眞

言宗新義ナリ

雷電社板倉村^{別當}西向龍藏寺^{眞言}沼^臨境地表

景ナリ

寺院

光思寺

赤岩村ニテリ真言古義ナリモトハニ論

宗ナリ推古天皇廿二年ニ論宗ニ釋ノ慧觀ノ

開基其後大同四年弘法大師改メテ真言

トス其ヨリ以後教回顛廢セシニ尊譽ト云

人中與セリ付室ニ大師將來ノ五鉢アリ

齋田拾陸石陸斗

安樂寺 同所より曹洞宗

齋田拾伍石参斗

茂林寺

松工村 清柳村ナリ

青龍山下徐開山大林正通知尚應永三十二年

創建常富寺ナリ

和尚嘗榛名山ノ下ニ於テ一僧ニ逢フ名ヲ守鶴

ト於テ和尚ニ宿待セシテラ 懇望ス則チ許シテ保

ナラテ還リ館林ニ至リテ一草葉ヲ掉^{サカサ}シテ依正セ

ントスルニ守雀ノ指圖ヨリテ吏ニ巫壇地ヲ

尋得ク是即今茂林寺ナリ良角ニ地ナリ

松樹鬱茂セリ乃チ爰ニ寺ヲ立ツ其後大衆雲

集テ千人ニ及ヘリ守雀ヲシテ寺務ヲ主ラシム

ニ親ラ茶ヲ煮シテ大衆ニ給スルニ茶籠終日溢

此繩^ルコナシ久^{ニテ}後一日守^ニ雀會^ニ畫^ニ寐^{タリ}
和尚用事^{ナリ}テ守^ニ雀ヲ呼^ベテ應^{ナキ}依^テ
其房^ニ列^リテ見^ルニ他^ノ執^{トナリ}テ卧^{カリ}
和尚奇^{ニテ}言^{ハス}メ方丈^ニ友^ニ守^ニ雀眠^覺テ
其本^質ヲ形^セシヨク漸^ニ挽^ク和尚^ニ告^シテ去^ラ
シヨク求^ム乃^ヲシ始^メテ演^説テ退^ク其提^携
スル茶^罐今^テ猶^在リ又^テ寺^ノ傍^ニ守^鶴ノ宮^{アリ}

又池^ニ小洲^{アリ}常有^ニ鶴^テ乳^ス

文永二年密^ニ天正^茂和尚^ノ時

勅^願所^{トナリ}

佛^殿聯^ニ森^カ密^茂林^葉益^ニ雜^樹而^蔭涼^ニ
天下^去祿^ニ注^洋湖^水現^ニ有^ニ神^龍而^推護^法
幢^來

齋田貳拾叁石肆斗

善長寺 曹洞宗常會土橋トウカキ常紳トウカキ屬不

開大雲伊後和尙末支拈笑流。伊豆最勝院末寺。武相骨波田長泉寺同大洞之裔。

開基赤井但馬守家範為舍兄山城守氏信

建立氏信法名善長寺殿齋菴全亮大居士

大永三年六月廿日卒軍配馬鞍今猶在焉

是寺僧ノ説ナリ但馬守山城守ノ名乘館城ノ記并記
録家ノ説ト不舎又但馬守山城守ノ兄オト云是亦異説リ

赤井ノ事ト詳記此寺館城ノ東南踰躡カ崎ノ地ニ在リ前ハ沼ナリ後南ヲ踰躡カ崎ト云景色ノ地ナリ

齋田伍拾石

普濟寺

ニカラ下五箇材ナリ曹洞宗

齋田佰石 江口村

善導寺

伊谷田村館林町ナリ館林町ノ南畔ナリ淨

土奈鏡林ナリ幡隨意白道上又ノ開基ナリ

丈比寺ニ在セシトキ躑躅崎ノ龍老父化

ニ來テ布薩戒ヲ乞テ今大ノ由ヲ述フ丈使

血脉請ヲ與ヘテ法名ヲ龍譽高天ト名ツラ

龍乃キ謝シ云フ大恩報スル所ナシ但井水ヲ奉獻

シテ結夏ノ中大衆ノ洗浴ニ供シテ竭之スル丁

ナカラシメント今境内ニアル龍井ヨリナリ後上人

江戸幡隨院ヲ開テ彼ニ移リ在シトキ女人

オウツテ申サウ毒ハ躑躅崎ノ龍女ナリ嚮ニ毒カ

夫血脉ヲ頂戴セシトキ毒瘰障セリテ見ユ

ヲ不得今願ウ戒ヲ受テ和尚ノ命子タラト

上人又血脈諸ヲ与テ名ヲ玉譽所籠トナツタ
此支上人ノ傳并ニ也人ノ著リ知ルルナリ
齋田百石終南山ト号ス

遍照寺 曰所ニテリ真吉新義ナリ

齋田拾貳石玖斗

當寺鐘銘智積院泊如運敵僧正撰ナリ其辞
遍照精舍新鐘出型聲ノ説法汝等諦聽
初在鐘也末耳鎗々雖云末耳固有函聲
一旦鑪鞞偉器忽成片杵統扣發林垵霜
天報曙水夜 響徹刹海泥淨息刑
人在纏也性具圓明一藉鑪鞞昏醉復醒
皎々心月光廓太清何謂鑪鞞惟信惟行

莫久在鑛^{アノコ}懃^{アノコ}故^{アノコ}羣^{アノコ}萌

寶福寺 板倉村ニアリ真言宗古義ナリ大日小

号大日年中建之本堂阿弥陀如意輪觀音

聖徳太子古筒七堂伽藍ナリト云

龍泉寺 小泉村ニアリ曹洞宗号祥平山

齋田拾肆石捌斗 城其南村昔大寺古城北

小泉城主善願秀光正中建之茂林寺ノ里梵海湖音
富岡 同祖下小山号祥平秀光父持光法名ナリ

教王院 館林加法師村ニアリ真言宗新義

天福寺 館林ノ町ニアリ真言宗新義

總徳院 館林大宿ニアリ真言宗新義

萬徳山廣瀨寺遺跡

館林ニリ

此寺ハ興隆九年

憲廟館林御城主ノ時御城代金田遠江守本多甚左衛門ノ願ニ依リ黄蘗寺ノ御音海和尙ヲ請リ建立ス其地ハ菅田和泉守城主ノ時菩提所龍岩寺ヲ建ラレリ佐倉右所替ノ時寺モ移サレシ貴人跡ヲ轉シテ廣瀨寺ヲ立ラレ大衆雲集セヨリ

上ヨリ米五斗依ツテ賜リス
憲廟毫飛ノ後御音寺ヲ降シテ去レ遠州ニ御奉行所ニ相ハレニ新寺トシテ次第ニスヘシ殿者ニテ前ヨリ作奉ケレハ毀彼スヘキ由ニテ殿者ハ真福寺ノ住持寺ヘ取連ヒス鐘ハ真福寺ヘ移ス其鐘銘ニ記

萬徳山鐘銘并引

館林宰相公爲檀主開萬徳山廣瀨寺定御音海知藏安禪之僧作第一代之住持是田信濃守恭岳居士發菩提心捐金鑄蒲牢以鎮山門庶幾晨昏叩擊洪音朗徹普被幽冥並及山川神祇鬼劫獲又聞新貴頓晚年楚之難而超淨域自古以來凡有寺宇莫不懸鐘置磬極施其大利也由是來請願銘山僧喜且素

爲勝事乃援筆而書曰大地爲爐活須彌
作炭塊鑄出劫洪音多懸碧落昔擊扣擊
無虧圓聞苦有隊厥功並海深起昇極樂內。
頓悅業聲達其德與天配永鎮此山門萬古而
長在吾說斯獨言流芳百億載玉葉及金枝
昌昌至窮代皆寬文十年庚辰
了銘木菴
和尚製

宝林寺 真福寺村ラリ真福山云舊臨海宗大拙能和尚
開基寬文七年寺主元頓寺ラ嗣者謙云了云黃蘗派

十一

鎌倉物語
 永享十一年
 持良、味舞
 木駿、同守持
 廣、謀ス
 上長尾、芳傳
 命、芳傳、夕
 ハ、リテ、舞、不
 朝親、ス、舞、不
 宗、騎、不、并
 着、狭、守、不
 侍、カ、事、中
 切、リ、入、三、入、リ
 伐、殺、シ、テ、カ
 死、ス

城壘

鉢林城

佐貫庄

弘治二年正月赤井但馬守照康入道法蓮力築

ク、外、ナリ、赤井、氏、永、享、ノ、乱、結、城、ニ、シ、テ、此、無、事、駿、同、守、
 カ、一、族、赤、井、若、狭、守、カ、曾、孫、シ、山、城、守、勝、光、ト、云、フ、
 山、城、守、カ、子、但、馬、守、大、袋、城、任、セ、リ、正、月、比、舞、水、ノ、
 寺、(往、路、ヲ、) 柳、子、ノ、見、章、為、捕、ト、タ、ル、ウ、也、
 得、テ、助、ケ、シ、歸、路、及、ニ、テ、一、人、ノ、冒、忽、然、上、テ

又松蔭私語八相抄落ヨリ佐貫庄鉢林向
 城主赤井被官赤井文三又ヨリ三芳(湖水
 マテ、以、口、ナリ、長、尾、景、信、ノ、子、大、口、道、備、六、千、余、騎、兵、持、
 城、主、降、
 赤、井、
 信、康、
 道、為、
 代、官、
 仕、ト、云、ク

来リテ鋒ニテ元ク僕カ子。公ノ為ニ命ヲ助ラレ其
思窮リテ但今公ノ城地不吉地ナリ是ヨリ
北ニ當リ菊間長者カ住シ下吉利ノ地ナリ是ニ
我繩張イタスヘトテ去リカ果リ其礼ニ尾曳テ
城擲ノイトラ付キヌ是ヨリテ城ヲ築テ同三月
ニ移住セリ擬舊記山城守ハ天文十年辛ス
但馬守ハ永祿三年七月辛ス但馬守
辛ス及テ子息文六昭景幼少ス依ノ家長

殊妹智ナレハ毛呂因幡守李忠軍務ヲ替ス

赤井ハ元スリ上杉ノ旗下ニテ憲政没落ノ後謙信

ニ從ヒテ毛呂カ代ニ至リシカ永祿四年奇西ノ戦

時ニ叛ク故謙信ニシテ伐ツテ攻取リ足利城ニ

長尾但馬守顯長ニシテ顯長ハ旧良因幡守カ弟ナリ
長尾政長カ養子ナリ

顯長足利城ニ家臣白石豊前守ヲ置テ白

館林ニ移住ス比城荒尾ヲ曳シ以尾曳城ト

名城中尾曳稻荷社アリ永祿九年九月北
條氏政武州松山立馬リ堀和伯耆守ヲノ
鎗林ヲ攻シトキ成夜城兵夜討ニセトノ七八
十人風雨ヲ使ナシテ打立シ天袋山ヨリ松明
数百敵ヲ後ニ押シ来ルヲ見テ寄手大ニ敗
テ軍ヲ及ス軍散リ後ソノ跡ヲ見テ拈骨
夥シク山野ニ充テ獸ノ草ヲ踏藉タレ彼アリ

天平六年八月氏直又館林ヲ攻メ方便テ扱ヲ
入レ遂ニ城ヲ取上ケ豆別菲山城並比條菴濃
守氏親ニ与フ榎氏親ニ与ル前二年ハカリ上総國
東金ノ城主酒井左衛門尉在著リ
又榎ニ小田原ノ年入りシハ天平十五年
年ナルニ不辺ハ酒井リニ年在著不各氏親カ城代南
條因幡守ヨリ居ス
コトヨリ前ハ今ノ所屋ナシ加
法師口ノ門外ヨリ土橋若長
寺ノ後ニテ所屋六百軒余有
リテ此時ニ下外張ニ引後ス天平十八年五月石田
ニ成長東正家等萱臣殿下リ命ヲ奉ケテ

攻ニ城南躑躅カ淵ハ深沼ニテ攻寄ヘキ使ナ
キヲ以ニ成令ノ大袋山ノ竹木ヲ伐下ノ沼中
投足代トシ路ニ條ヲ拵明日四方ヨリ惣攻
ニセト議定シケルニ其夜晝教子ノ松明ニ人
聲呼トク聞ケレハ寄手ハ城兵ノ所為ト思
ヒ城中ニハ寄手ノ任業カト疑ヒシニ明日至
リ見レ沼中ニ架ヘタル路悉ク沈ミ失タリ是時

南方ノ降將北條氏時寄ノ子ノ先鋒ニ在リシ
永祿九年ノ稻荷ノ盟歟ノ語リス諸將始テ
奇將ノ想ヲ作シカ攻ニスヘカラサルヲ察シテ氏
勝ニ命ヲ和ヲ取繕ハシム城兵退散南條行方
ヲ不知退
御入國ノ後神原式部大輔康政賜ノ城任十七
ヶ年慶
長十二年五月十四日ヲ大正十八年八月外張ノ町屋
法名見向善導寺ヲ今ノ仇ト移ス文祿三年正月ヨリ
堀外ノ惣堀ヲ慶長十一年ヨリ神原遠江守康勝城
任

十年元和元年五月廿七日季法名丁実
元和二年ヨリ松平式部大輔忠次
康政ノ養子実大須賀五郎高門ニ曾ヨリ此代賜松平氏
寛永廿年與別白河ノ房替林原三代五十四年城任
寛永二十年ヨリ正保元年ヲ番城御城者徳田因幡
守前田右近之丈
板原四郎兵衛大田原伍兵衛
荒尾平知
正保元年三月ヨリ松平
和泉守兼壽城任十八年寛文元年
林下総國佐倉ノ所替寛文元年九
月廿八日ヨリ

館林宰相綱吉公

御城代金田遠江守同三年ヨリ五年
御普請出来同年五月九日去山

御社參還御ノ節被為入同十三日御逗留 延宝八年

延宝八年五月七日御奏若成ラセシ

ヨリ天和二年

御城在三年御城代金田遠江守御領分上野州

天和三年六月廿八日ヨリ七月中旬ヨリ御城破ラレ

貞享元年四月朝相ナリ元禄十五年追藤林

半伐取新畑トナリ實永四年正月十一日松平

出羽守清武ニ館林ヲ賜ル同七年軍師昇

野新七繩張ス舊城トハ別ナリ古壘ニ横ニハツ

振當ルルニアシ凡多ハアタラス享保九年三月

城擲悉ク成ル享保元年九月十六日清武奉スハ

任右進清武嫡子内藏頭清行先クツテ卒ス

三尾張根津守ノ二男肥前守武惟ヲ養子

トシ館林ノ城主ナリ享保十三年七月享保十三年

ヨリ松平源之進武元實ハ水戸藩磨守頼助同

十四年奥州棚倉へ徙封同年二月ヨリ太田
備中守資重

撰本村但馬守ノ時ハ尾曳城ト云長尾但馬守比佐貫城ト云
又狐尾ノ曳ニ城ノ象ヲ作ス下甚奇ナリ然亦新トアリ後
漢書住馬城秦始皇筑城鞠崩壞其後有馬周章馳走
因隨馬迹起城故以名馬ト異邦ニモアユトナリ

近藤傳屋 青柳村ノ内ナリ室永四年ヨリ
御本九方水方ノ御役人コノ知ニ居ス渡領川

ノ用水十四方八千石ヨリナリ明和ノ末ユ
御役所止ニテリ江戸勝年ニナル

云永四年御屋
録本村
室永四年御屋
内苗木ノ川

青柳故城 赤井山城守勝光カ城ナリ比ハ

長クヨリ後ノ変ナルヘシ 山城守ノ名異説多ク古
戦録ニ勝元法名光隆ト

アリ上俗ノ説 照光又勝光ト共ニ名トス
夫古ノ語凡者必ス赤井セウクウラヲ称ス

大袋古城 羽付村ニアリ山城ナリ赤井但馬

入道法蓮カ故城ナリコレヨリ館林ニ移住ス

北犬嶋故壘 片見因幡守ノ居ル処ナリ

飯野故壘

淵名上野カ居ルナリ

淵名上野カハ赤坂ニ野

ハ赤坂ニ野カト云云説アリ照レ長尾但馬守カ田原ニ拘留セラレ、
時白石備前守ト凡、館林ヲ守ル又後北条氏規ニ屬テ
館林ヲ成ルモ赤坂上野ト別人ナルハ但ニ後ニ館林ハ
從ヒテ飯野移任セル歟謙信ニ聞ノ城ヲ攻取リテ
館林ノ毛呂季忠ハ五ニ一トシ其時分ヨリ館林ニ屬
ニテ移任セル者カ此輩ニハ三ノ一ニ謙信飯野故壘ヲ著シ
テ其地ヲ名開テ移任セル者カ此輩ニハ三ノ一ニ謙信飯野故壘ヲ著シ

板倉故壘

真下越前守カ居ルナリ

真下越前守カ居ルナリ

テ館林ノ旗下ナリ

小泉故城

天文ノ地富岡六角四郎同主税助

重正

重朝コレニ居ス始ニ上校カ幕下後謙信カ指

魔之從

又赤井カ旗下ナリ

重朝實ハ山下

ナリ天文二十二年四月謙信ト子葉以ト武州ノ村岡
河原ニ戰時重正ニ赤井長尾佐野トカシ戮セリ
子葉ハ破レ永禄癸亥ノ春謙信松別白井城
ヲ攻ル時ニ重正先鋒タリ曰五年野別ト山カ祇園
城ヲ攻ルトテ重朝極ヒシ入レテ秀綱ヲ赦フ此時ナ
ラ一城ノ將タケ其後長尾顯長カ旗下トナリ夫正
十六年賜長小田原ヲ留メトテ板倉ノ真下越前大嶋
ノ片見因幡飯野ノ淵名上野藤岡ノ富田又十郎及

小泉ノ富田六郎次郎ト云々
 重朝カ子ト云々
 大守ト云々
 城ヲリト云々
 寺石牌アリト云々
 衣四月廿七日迄云々
 云々
 云々

舞不故城 舞木駿河守居之処今光西寺ト云

時宗ノ小寺ノ跡ナリ方八段ハカリアリ
光西寺ハ同林田福寺ナリ

下地

小泉故城 結城氏朝並長子七郎持朝父子結城戰場戦死時

小泉ノ延徳元年乙酉始ニ小泉ニ城ヲ筑ク後任ス城東亞五郎
 南北十七町墮幅七丈間小泉七郷五集郡七十一村ノ領大正二年
 八月十三日卒号祥平院象林道逸其子秀若頭秀光秀光カ
 子五郎四郎秀信後号五郎次水林氏辰四月十七日卒葬于壘
 上此人替カアリ秀信カ子清四郎秀親後改大炊助水林十
 二年十二月廿六日古戸ニ於テ戦死ス嗣子ナシ小泉野守言朝貞
 彦大守重朝ヲ嗣トス後對馬守ト号ス天正十二年乙酉八月
 十二日卒要津院天性長源ト号ス其子六郎四郎秀朝後大
 炊助ト云此人ノ時没落後松倉豊後守重政任ニ大坂
 三丁打死ス

後豊正

利根川堤 古村より五ヶ村に至り一万八千三百九間細計八里十七町高丈是丈敷十五間或十六七間馬踏三間文祿四年築立奉行荒瀬長兵衛石川佐兵衛門

渡瀬川堤 下野国正河郡田中村より起り當郡尚老瀬に至り一万二千九十三間文祿四年乙未正月築立奉行同上

大縣入道 松天用入道 新田庄ニテ年捕ル大草紙 永享十年二月持氏生害同十年正月持氏一色伴守和降参上カ終ニ此時奔駿河守持廣一色リ堂又ヨリ長尾若傳奔木ヲ方使リテ刺殺ス森木カ寄騎奔井若校守若傳力亭中ノ代又三人ヲ殺シテ凶死ス鎌倉物語此

ヨリ後森木氏不見

古書所載地名今不詳者

伊奈良沼 見萬葉集

可美都氣奴伊奈良能奴麻能於保為具丸与曾尔見之

欲波伊麻新曾麻丸禮

奈集 伊奈良ノ沼有草ヨソニヤ恋之袖ハ朽ト云 順徳院

奈集 古草波ハ上ニワナカリケル 伊奈良沼ニ晴ヌ五月雨 為家

可保夜沼 又見萬葉集

可養都氣男可保夜我奴麻純伊波為都夜比可波奴礼

都追安手奈多要曾祢

東路可保夜カ沼杜若春ヲユメテモ咲ニケル哉

咲ニホノカホヤカ崎ノ女節花誰カハミニテ尋子エザラシ 志隆

市師原 六帖ノ哥

上野ヤ市師ノ原ノイテシルクユナトシ見ヘテ人ニ知ルナ

原池 風俗哥上野

ラシタカヘ鴉サヘキスル原ノ池ノ口。玉藻ハマヌカリヲ

オイモヌカ子ヤマ子ツソヤ

枕草紙原ノ池玉藻ハ川ワトイヒケシモオカレ

後集
原ノ池ノ岸邊ニタテル草色ニ種ニ波モカクヤ
順徳院

枝池 春雨抄ニ上野トアリ或説末劫

秋風吹ニコレル嶋松ノ枝ノ池ニ波ノ越ラシ

聖隆寺

文徳實録嘉祥三年四月丙子詔以上野國聖隆寺為延慶寺
別院

郡領庄 鎌倉大車紙ニ文明九年正月十九日顯定憲房定正
上

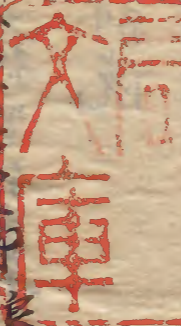
杖ニ文十勢ニ叶ニトテ上野ハオ越催大勢景春ヲ可退沼トテ

大田道真ヲ殿ニテ利根川ヲ渡リ郡領庄ハ引退ノ又見田

道漢軍打勝テ上列郡復在ハ兩上板ヲ迎東ルト云

三月九日 甲陽軍鑑弘治三年丁巳四月九日信玄上野二日虎於長

野信濃守ト云 或云守中ノ將ノ南碓氷以ノ向ニ人見原云外是ナ



小原庄中里外

長親地蔵堂此所地蔵堂アリト往昔寺 七尊昌セシ荒廢スル河井七神伊光ト云者疑心ヲ起シ

